

本校3年生の牧野圭吾さんが第32回朝日作曲賞を受賞しました。応募作品201曲、17歳での受賞は最年少となります。牧野さんの作品は2023年度全日本吹奏楽コンクールの課題曲4曲の中の1曲となり、全国の中学・高校・大学・職業・一般の団体に演奏されます。

牧野さんにお話を伺いました。

このたびは第32回朝日作曲賞受賞おめでとうございます。

どうやって受賞を知りましたか。

東京からの移動中に、吹奏楽連盟の方から、新千歳空港駅の電車の中で電話を受けました。

知らせを受けた時の気持ちを聞かせてください。

信じられないという気持ちと、一気に責任感が増した感じがして、自分自身、人柄とか成長しなければいけないなという思いがあって、うれしいというよりは引き締まった感じです。

周りの反応はどうでしたか。

先生方がグータッチしに来てくれたり、音楽の先生から賞賛の言葉をいただいたりしました。吹奏楽関係の方からはお祝いの言葉をいただいたりしています。SNS上でも最年少での受賞ということで反響がありました。周りが喜んでくれて、たいへんうれしいです。

音楽歴を聞かせてください。

3歳頃からピアノとエレクトーンを始めました。中学時代は吹奏楽部に所属しており、部長を務めていました。楽器はチューバでした。3年生の時に東日本学校吹奏楽大会(全国大会)でB編成1位を受賞しました。現在は和声を教わっています。

作曲はいつから始めましたか。

高校2年生の4月からです。第30回TIAA全日本作曲家コンクールで奨励賞(受賞曲Amabile)、令和5年全国高等学校総合体育大会総合開会式ファンファーレで優秀賞をいただきました。

なぜ、今回朝日作曲賞に応募したのですか。

吹奏楽の、特にマーチという音楽に憧れがあって、それにみんなが青春を捧げて、ひと夏かけて演奏するという意義と魅力を感じたからです。

好きなマーチは何ですか。

五月の風(1997年)とコンサートマーチ「テイク・オフ」(1986年)です。

曲はどのように作ったのですか。

チューバを吹いていたこともあり、ベースラインから作りました。そこからコードをのせて、メロディをあてていきました。

一番苦労したことは何ですか。

中学生・高校生の技術で吹ける範囲の曲をつくること、みんなが親しんで吹けるという点です。

「煌（きら）めきの朝」というタイトルは何から発想しましたか。

通学路である中島公園の池のきらめき感と、ひと夏にかける吹奏楽部員の姿を照らし合わせました。

将来の夢は何ですか。

指揮者か作曲家になることです。若い世代が気軽に吹奏楽やクラシックの演奏会に聴きに来れるような環境を作りたいです。

月寒高校で過ごしてよかったと思うことは何ですか。

素直な自分を受け入れてくれる友人・先生が多いことです。曲を作るときはアイディアが勝負だと思うのですが、心が健康でないとよい発想が出てこない。心の健康は周りの環境に左右されると思うので、自分にとって友達がよくて環境がよいことがこの度の名誉ある受賞につながったと思います。月寒高校は普通科の高校ですが、いろいろな生徒がいて、さまざまな方向からサポートしてくれる先生がたくさんいるので、勉強だけでなくやりたいことがある人が過ごしやすい学校だと思います。

残りの高校生活をどう過ごしたいですか。

毎日一歩ずつ少しでも自分を好きになるように、だらけず、誘惑に負けず、謙虚に生活を律していきたいです。

下級生や入学希望者に伝えたいことはありますか。

「やらなければいけないこと」を自分の中で有意義なものに変えて、意義をつけて楽しんでしまう。勉強と思わないことが大切だと思います。

ありがとうございました。

課題曲のCDやDVD、スコア等は1月下旬に発売予定です。応募規約上、ご家族ですら曲を聴けていないとのこと。来春以降、全国の学校から「煌（きら）めきの朝」が聞こえてくることを楽しみにお待ちください。

